



## 朝鮮語の思考動詞「[ ]」に関する通時的考察

メタデータ	言語: ja 出版者: 日本韓国研究会 公開日: 2023-08-09 キーワード (Ja): 副詞語, 感情形容詞, 一音節の漢字, 接尾辞「-[ ]」 キーワード (En): 作成者: 仲島, 淳子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/0002000031">http://hdl.handle.net/10466/0002000031</a>

# 朝鮮語の思考動詞「여기다」に関する通時的考察

仲島 淳子（関西大学大学院博士後期課程）

## <要旨>

本研究は、朝鮮語の思考動詞「여기다」について、中世から近代、そして現代へと通時的に、形態的、統辞的、意味的分析を実施し、その特徴を提示することを目的とした。その結果「여기다」の形態が、1920年には6割に達し、その後1930年には9割を超え、現在はほぼ100%「여기다」を使用することがわかった。活用形態と漢字の意味的分析から、現在は感情形容詞の一単語で表されるものが、中世から近代にかけては「副詞語+너기다」でその意味を担い形容詞のような扱いであったか、あるいは「너기다」が形容詞を強調する役割だけをしていたと考えられる。結合関係は「여기다」に該当する単語に先行し結合する要素は、いずれの時代においても、接尾辞「-이」が結合した副詞語が最も多く、その副詞語を形成するのは、感情を表す形容詞からの派生副詞が大半であった。そして、現代中期以降「-게」の割合が多く、また「-게」が結合する形容詞は、感情を表すものではなく状態を表す形容詞であった。統辞論的統合構造については、李賢熙(2005)の先行研究を元に分析を行い、新たに5つの構文追加が必要であることについて述べた。

キーワード 副詞語、感情形容詞、一音節の漢字、接尾辞「-이」

## 1. はじめに

朝鮮語において、日本語の「思う」に該当する単語として「생각하다」、「여기다」、「헤아리다」などがある。これら3つの単語は、現代語で意味が重なる部分もあれば、それぞれが独自の意味を持つ。朝鮮語学習者にとって、このような同義語の使用は、明確な判断基準がなければ非常に難しく、また誤用も起こしやすい。そこで、「생각하다」、「여기다」、「헤아리다」について、中世、近代、現代にかけ通時的に、形態的、統辞的、意味的分析を実施し、それぞれの単語が持つ特徴を明らかにすることは、朝鮮語学習者及び朝鮮語教育に必要であると考えられる。現在、これら3つの単語について並行して分析を行っており、本稿は、その中の「여기다」に関する分析結果を考察し、その特徴を提示することを目的とする。

## 2. 研究範囲及び対象

研究範囲及び対象は次の通りである。まず、2017年6月に韓国の国立国語院で公開された、「역사 자료 종합정비 결과(歴史資料総合整備結果)」を基に、15世紀から20世紀までの総997件の文献資料によって構築された検索機「어디메」を用い、抽出した5042個の「여기다」に該当する単語とその文章である。時代別の文献数は表1の通りである。(全文献名は【付録1】参照)

表1 「어디메」の時代別検索対象文献数

時代	文献数
15世紀	改刊 法華經諺解、救急簡易方諺解、救急方諺解 他 29
16世紀	簡易辟瘟方、警民編、救荒撮要 他 42
17世紀	家禮諺解、警民編諺解、勸念要録 全 他 46
18世紀	家禮釋義、加髻申禁事目、改修 捷解新語 他 81
19世紀	歌曲源流、敬惜字紙文諺解、京郷新聞 他 73
20世紀	寶鑑、部別千字文、邵康節活字本 他 9

そして、意味が「여기다」として掲載された表題語の例文を、李朝時代の文献に記録された約30,000語の見出し語からなる『李朝語辭典』(劉昌惇、延世大學校出版部)から43用例、1145年~1908年のものと思われる326の文献に記録された11,315語の古語が採録されている『교학 고어사전』(南廣祐、(株)教學社、以下『古語辭典』という)から48用例、ハングルが創製されて以降20世紀の初めまでにハングルで筆写された文献に現れた語彙や文法要素からなる『고어대사전』(박재연、서문대학교 중한번역문헌연구소)から26用例を対象とした(文献名は【付録2】参照)。さらに、現代語については、2021年8月19日に公開された국립국어원 비출판물 말뭉치(버전 1.0)より、小学生から80代の成人まで総5,937人が書いた、詩、日記、手紙、小説(童話)、観賞文など総2,174,487語節から作成された「개인적 글쓰기 자료」、総2,739名の話者が、15個の主題、13個の提示資料を対象に二人の話者が自由に対話した日常対話資料(対話当たり約15分、総500時間分)「2020년 일상 대화 말뭉치」から、それぞれ「여기다」が使用された29の文章と24の文章を収集し、また、연세 20세기 한

국어 말뭉치から「여기다」が使用された 30,862 の文章を収集し使用した。そして、必要に応じ『우리말 큰사전 4:옛말과 이두』(한글학회、以下『우리말 큰사전』という)、『17세기 국어사전』(홍윤표他、太學社)に意味が「여기다」として掲載された表題語の例文を参考にし、形態構造面、統語構造面、意味面について考察した。

朝鮮語史の時代区分については、音韻や文法、語彙などの体系の変化や、文体の変化といった言語の変化を基準としたものや、社会的な歴史区分を基準としたものなど、その時代区分については、研究者によって設定に多少異なる部分がある。しかし、言語に関する時代をどのように区分するかは、当然ながら言語の音韻や文法、語彙などの変化が基準になるべきである。そのため、本稿では母音体系や子音体系、文法体系の変化を基準とした、이기문(1961)の時代区分を基とするが、‘·’の消滅は、朝鮮語の母音体系において大きな変化であり、言語の変化を分析する上で重要であるため、この‘·’の消滅と‘e’、‘ε’の単母音の誕生によって 7 母音体系から 8 母音体系へと変化した時期で、さらに近代を前期、後期に区分した홍윤표(1994)の時代区分を基準として「中世、近代、現代」を使用する。

古代朝鮮語：～9 世紀末

中世朝鮮語：10 世紀～13 世紀末(前期)、14 世紀～16 世紀末(後期)

近代朝鮮語：17 世紀～18 世紀中盤(前期)、18 世紀中盤以降～19 世紀末(後期)

現代朝鮮語：20 世紀初～現在

### 3. 先行研究

李賢熙(2005)では、15 世紀中世語の辞書を編纂する際、登載する用例の配列順序をどのように配列するのか検討するために、既存の古語辞典『우리말큰사전』、『李朝語辭典』、『古語辭典』に掲載された「너지다」の見出し項を整理し、意味論的特性と音韻論的顕現様相、形態論的統合構造と統辞論的統合構造に分けて考察している。

まず、意味論的特性について、中世朝鮮語の「너지다」は現代朝鮮語「여기다」の、“心の中である対象を何らかに思ったり判断する”という意味とほぼ類似した意味を持つと見られるが、中世朝鮮語の「너지다」が「여기다」よりはるかに多様な構文類型を見せるため、留意しなければならないとしている。そして、中世朝鮮語で「생각하다、판단하다、여기다」の意味以外に「말하다」の意味としても使用されていたと推測している。

そして、統辞論的統合構造について、11 パターンを例と共に羅列し、その中でも「너지다」構文は、目的語を持つ場合、目的語と「너지다」の間に副詞語を統合させる構文類型が最も多いと述べている。(1)～(3)は、「너지다」の前

に副詞語が先行する構文の例である。

<2>'(NP-를, V-오물, V-{ㄴ, ㄹ}돌)ADP<sup>1</sup> 너기다'形式

- (1) ㄱ. 衆生이 저근 惡을 므더니 너겨<月印釋譜 21:78>  
 ㄴ. 特進의 빗나물 돌히 너기다 아니하소라<杜詩諺解初刊本 24:30>  
 ㄷ. 가야미 사리 오라고 몸 닷기 모루는 돌 舍利弗이 슬피 너기니<月印千江之曲 上 170>

<2'>'VP-돌 ADP 너기다'形式

- (2) 이 곤흔 豆흔 藥을 먹돌 슬히 너기니<月印釋譜 17:21>

<2''>'NP-{에, 로}ADP 너기다'形式

- (3) 사르미 다 조조 드로모로 榮籠히 너기거늘<內訓 2 下 11-2>

しかし、李賢熙(2005)は、あくまでも辞書編纂時に登載する用例の配列順序についてのみ述べており、また構文類型について李賢熙(1994)においても、「너기다」構文が、目的語を持つ場合、目的語と「너기다」の間に副詞語を統合させる構文類型が最も多い理由については言及していない。

홍사만(1998,2003)は、思惟動詞「사랑하다」について「싱각하다」、「너기다」との類義関係を分析する中で、「사랑하다」、「싱각하다」、「너기다」は‘-ㄴ가 X’、‘-고져 X’、‘-줄을 X’の統辞的環境で共通的な分布を見せると述べている。そして、「너기다」について、次のようにまとめている。①現代国語動詞「여기다」は目的語とその補充的な項を要求する複雑な他動詞であり、“무엇을 어떻게 여기다”、“무엇을 무엇으로 여기다”、“무엇을 무엇이라고 여기다”という文型が一般的な形態で、それは中世、近代の「너기다」についても同様であり、‘目的語+副詞「너기다」’の分布が最も多かった。②‘目的語+補充語「너기다」’構文における補充語は、様態副詞を始め、‘N+로’があり、同等比較構文として‘-ㄴ(ㄹ)가’、‘-ㄷ(ㄷ시)’、‘-ㄱ터’などがあった。③「너기다」の前に冠形下位文が来る‘S-「너기다」’構文ではその下位文が‘-ㄴ(ㄹ)가(고)「너기다」’の疑問形と、‘-다(라)「너기다」’の平叙文の場合が一般的であり、間接話法となる一種の引用文である。④中世国語

<sup>1</sup> NP(名詞句) VP(動詞句) ADP(副詞語) S(主述構造を完全に持つ文章) S' (述語部分が上位文の目的語と同じなので省略された文章)

で「너지다」は部分的ではあるが、自動詞として使われたものと、他動詞として使われ目的語を持ちその補充語がない形態がある。目的語に依存名詞が来ることもあり、そのような分布は「사랑하다」にも見られる同価的形態である。⑤「너지다」で始まる文は、必ず冠形下位文が後続し、間接話法の引用文と扱うことができるが、近代では確認できない。⑥近代国語で‘目的語+副詞「너지다」’と交替が可能な‘目的語+副詞「싱각하다」’の形が見られないのは両者が弁別的な統辞制約を形成していたためで、現代にはそれが失われた。

上記の「너지다」に関するまとめ④で、中世朝鮮語で「너지다」は部分的ではあるが、自動詞として使われたものがあることについて触れており、その大部分が「너지다」の形態で現れ、「너지다 -하다」の形式であるとしている。そしてこの時「너지다」は前置文で後続する下位文は間接話法引用文の性格を帯びるものと思われると述べている。しかし、15世紀以降「너지다」が「너지다」の形態以外で自動詞のように現れるものがあり、さらに考察が必要であると思われる。

이은섭(2008)は、現代朝鮮語で「여기다」が形成する構文について、辞書に掲載された例文と類型を元に、コーパスを用いて考察し、「여기-」構文の類型を‘-로’副詞語先行構文と副詞節先行構文の2つに分類し、特徴について次のように述べている。現代語の「여기-」構文は、①全体が他動詞構文である。②‘-게 여기-’構文と、‘-이 여기’構文は同質性がある。③意味面において、思惟主体が思惟対象を可視的なものとして認識しているか、思惟主体と対象との心理的距離などが「여기-」構文の類型を決定する要因である。また、「여기-」が形成する最も典型的な構文は‘-게 여기-’構文であり、‘-게’で代表する副詞節の叙述語は全て形容詞が担当していると述べている。しかし、これらは歴史的な部分には焦点を当てず、あくまで現代語のみ考察している。「여기다」が持つ形態的、統辞的、意味的な特徴と他の思考動詞「생각하다」、「헤아리다」との関連性を知るためには、共時的な考察では不十分であり、近代、更には中世と遡った通時的な調査が必要であると考えられる。

이상억、서승완(2017)では、1446年の『訓民正音解例』から1900年の『新約聖書』に至る朝鮮時代の400余りの文献に掲載された914個の表題語の変化形について調査し、その中で「여기다」の形態を表2の通り整理している。

表2 『조선시대어 형태 사전』여기다の世紀別形態  
(이상억、서승완(2017)『조선시대어 형태 사전』より)

単位(個)

世紀 基本形	15世紀	16世紀	17世紀	18世紀	19世紀
너지-	1174(석)	457	546	490	182(신심소)

녀기-	4(석)	71	93	159	57(매일)
녀기쁘-		1(龜)			
네기-			2(杜重)	1	223(예성로스)
녁이-			1(癸丑)	4	156(신약)
녁이-			70(계녀서)	62	992(신약)

そして、それぞれの形態の割合は、「녀기-」が60%、「녀기-」が8.1%、「녀기쁘-」が0.0%、「네기-」が4.8%、「녁이-」が3.4%、「녁이-」が23.7%であったとしている。つまり、15世紀から17世紀にかけての形態は「녀기-」が最も主流であったが、17世紀に「녁이-」が登場してから、徐々に「녀기-」は減少し、19世紀には「녁이-」が主流となったということである。また、表記方法の面では、15世紀に連綴表記であったものが、17世紀に入り分綴表記も見られるようになってきている。しかし、이상억、서승완(2017)では、形態の種類と時期、そして数のみを提示しただけにとどまっている。

本稿では、上記の先行研究では明確にされていない内容について、明らかにしたい。

#### 4. 「여기다」の形態的分析

##### 4.1 表記

『국립국어원 우리말샘』によると、「여기다」は15世紀から19世紀では「녀기다」、16世紀から19世紀では「녀기다」、18世紀以降は「여기다」として現れたとし、次のように解説されている。

현대 국어 '여기다'의 옛말인 '녀기다'는 15세기 문헌에서부터 나타난다. 16세기에는 제1음절에 반모음 'ㅣ[y]'가 첨가되어 모음 'ㄱ'이 'ㅋ'로 바뀐 '녀기다' 형태가 등장하였다. 근대국어 후기에 'ㄴ'의 구개음화로 인해 'ㅣ, ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ' 등의 모음 앞에서 'ㄴ'이 탈락하는 현상이 일어났는데, 이에 따라 18세기에는 '녀기다'에서 'ㄴ'이 탈락하여 현대 국어와 같은 '여기다'가 나타나게 되었다. 한편 근대국어 문헌에는 '녁이다, 녀이다, 역이다'와 같은 과도한 분철 표기도 등장하고 있다.

이형태/이표기      녀기다, 녀이다, 녀기다, 녀이다, 여기다, 역이다

(<sup>2</sup>現代韓国語「여기다」の古語である「녀기다」は15世紀の文献より現れる。16世紀には第1音節半母音「ㅣ[y]」が添加され、母音「ㄱ」が「ㅋ」に変わった「녀기다」という形態が登場する。近代韓国語後期に「ㄴ」の口蓋

<sup>2</sup> 著者による翻訳。以降( )内は著者による翻訳。

音化により「ㄹ, ㅍ, ㅋ, ㆁ, ㅍ, ㅍ」といった母音の前で「ㄹ」が脱落する現象が起こったが、これによって18世紀には「녀기다」から「ㄹ」が脱落し、現代韓国語と同じ「여기다」が現れることになった。一方、近代韓国語文献には「넉이다, 녍이다, 역이다」のような過度な分綴表記も登場している。異形態/異表記：녀기다, 녍이다, 녍기다, 녍이다, 여기다, 역이다)

『국립국어원 우리말샘』の世紀別形態は、이상억、서승완(2017)と同様に、「녀기다」、「녀기다」が15世紀から19世紀に現れる形態であり、「넉이다」、「넉이다」ともに17世紀ではなく18世紀に現れる形態となっているが、「녀기뜨다」、「네기다」は見られなかった。(【付録3】参照)

今回調査した「어디메」から抽出した5042個の形態は表3の通りである。

表3 「여기다」の世紀別形態(어디메より)

単位(数：個/割合：%)

世紀 基本形	15世紀		16世紀		17世紀		18世紀		19世紀		20世紀	
	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
녀기-	1068	100	451	90	438	84	610	69.4	213	16.8	112	14.0
녀기-			50	10	84	16	164	18.7	173	13.6	10	1.3
넉이-							88	10	566	44.4	581	72.8
넉이-							3	0.3	143	11.2	84	10.5
여기-							10	1.1	121	9.6	6	0.8
역이-							3	0.3	22	1.8	4	0.5
네기-									35	2.8		
녀계-							1	0.1				
넉기-									1	0.1	1	0.1

これらのデータで注目したいのは「여기다」という形態への変化時期である。이상억、서승완(2017)では、「여기다」は15世紀から19世紀では現れていなかった。そして、『국립국어원 우리말샘』によると、「여기다」は近代韓国語後期に「ㄹ」の口蓋音化により、18世紀には「녀기다」から「ㄹ」が脱落し、現代韓国語と同じ「여기다」が現れることになったとのみ述べており、現在の「여기다」という形態が主となった、はっきりとした時期を述べられていない。確かに表4でもわかるように、「여기다」は18世紀に全体の1.1%の割合で出現し始めた。しかし、19世紀になりそれまで主流であった「녀기다」が大幅に減少し、「여기다」の割合も増加してはいるものの、全体の10%弱にとどまり、「넉이다」という形態が全体の50%弱を占めている。そしてその傾向は変わることなく、20世紀には「넉이다」という形態が70%を超える。20世紀のデータに

については、「어디메」の対象文献が20世紀初期のものであるため、연세 20세기 한국어 말뭉치를を用い、「넉이다」、「넉이다」、「너기다」、「여기다」を検索した結果が表4である。

表4 20世紀の「여기다」の形態(연세 20세기 한국어 말뭉치より)  
単位(数：個/割合：%)

年代 基本形	1900		1910		1920		1930		1940		1950		1960		1970		1980		1990	
	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
넉이다	73	70.87	42	52.5	8	34.78	16	5.755	4	2.174		0		0	9	0.354	2	0.038	4	0.02
넉이다	21	20.39	18	22.5	14	4.348	3	1.079	2	1.087	1	0.163	1	0.055	7	0.275	4	0.076		0
너기다	1	0.971		0		0	1	0.36	2	1.087	1	0.163		0		0	3	0.057	17	0.085
여기다	8	7.767	20	25	14	60.87	258	92.81	176	95.65	610	99.67	1821	99.95	2525	99.37	5240	99.83	19949	99.89
	103	100	80	100	23	100	278	100	184	100	612	100	1822	100	2541	100	5249	100	19970	100

1910年代までは、「넉이다」が半数を超えるが、1920年代には、全体的な用例は少ないものの、その中でも「여기다」の数が他と比較して半数以上を示しており、さらに1940年代はほぼ「여기다」が使用されている。つまり、「여기다」は20世紀中盤にその形態が確立したということになる。抽出した語彙の形態を集計した表3、表4の通り、中世から現代までにかけて「여기다」の形態変化の主流は、「너기다>너기다>넉이다>넉이다>여기다」であったと言える。

次に「여기다」の異形態について、考察する。まず、(4)は「너기쁘다」の例文であり、1579年の文献『禪家龜艦診解』のものである。이상익, 서승완(2017)では、「너기쁘다」が1件となっていたが、2件確認できた。

(4) ㄱ. 저그나 너기쁘면<禪家龜艦診解上 3>

ㄴ. 學者 | 眞實로 너기며 議論티 몬호리로다<禪家龜艦診解下 63>

そして、「네기다」の用例をしてみる。次の(5)ㄱは「네기다」の例文で、1632年の文献『杜詩診解重刊』のものである。(5)ㄴ、ㄷの例文は、『華音撮要』、『三國志』いずれも19世紀の文献であり、19世紀には全体の2.8%の割合で「네기다」という形態が現れていた。

(5) ㄱ. 네브터 비르수 天命을 便宜히 네겨 : 宿昔始安命<杜詩診解重刊二 13>

ㄴ. 노야는 우리들의 이 한 목숨을 어엿비 네겨 다시 싱각호어라(老爺可憐我們)

的這一條性命再〓想着罷) 원접수(遠接使) <華音撮要 56b>

- ㄷ. 然? 죄 그러이 네져 죽이지 아니호고 별실에 두고 길으니 정옥이 날마다 가문안호고 일직 셔〓로 결의형제로르 호고 셔모를 친모갓치 디접호고(操然其言、遂不殺徐母、送於別室養之、程昱日往問候、詐言曾與徐庶結為兄弟、待徐母如親母) <三國志 6 : 61>

そして、先行研究や『국립국어원 우리말샘』では見られなかった、重綴表記「넉기다」が(6)の通り 1736 年の『女四書諺解』と 1900 年代の『閒中謾錄 2』で確認できた。

- (6) ㄱ. 인군이 그 쓰슬 아름다히 넉겨<女四書諺解 3 : 2>  
 ㄴ. 선인이 불행이 넉기오시고 넘너호시 측냥 읍수오시니<閒中謾錄 2>

同様に(7)は先行研究及び『국립국어원 우리말샘』では見られなかった「넉기다」が 19 世紀から 20 世紀の初めに書かれた『啓明大 西遊記』に見られる。

- (7) 니 나히 일천 히 풍상을 오만니 넉기니 높흔 줄기와 영기로은 가지 힘이 스스로 강호엿도다(吾年千載傲風雷霜、高幹靈枝力自剛) <啓明大 西遊記 21 : 100-64>

そしてわずかひとつであるが、(8)のように 1772 年の文献で「넉계다」が確認された。

- (8) 오 사람이 어엿비 넉계 제호는 디를 강 우희셔 오고 명호야 골오디 셔산이라 호다(吳人어憐之호야 立祠江上호고 命曰胥山이라 호다) <十九史略諺解卷之一>

이상억、서승완(2017)、『국립국어원 우리말샘』の分類では、15 世紀には「넉기다」、「넉계다」といった連綴表記であったものが、17 世紀、あるいは 18 世紀になり「넉이다」、「넉이다」といった分綴表記となっていたが、18 世紀に「넉기다」といった重綴表記が確認でき、つまり、18 世紀は表記方法の混乱期で、連綴表記、分綴表記、重綴表記が同時に存在した時期であったと考えられる。また連綴表記の基本形も「넉기다」、「넉계다」だけではなく、「넉기다」という表記も 19 世紀の文献で確認される。これは、近代に入り ‘.’ の消滅と ‘의’ の単母音化に伴い ‘-이/-의’ が ‘-이’ へと変化する時期であったためであると思われる。これらをまとめると、「여기다」の異形態は「넉기다、넉이다、넉계다、넉이다、넉이다、넉기다、넉기다、넉기뜨다、넉계다、넉기다」が存在したと言える。

## 4.2 連結語尾の活用形態

「너지다」は、『李朝語辭典』、『古語辭典』、『고어대사전』、『표준국어대사전』、いずれの辞書においても動詞として掲載された他動詞である。

中世の文法において、自動詞や動詞「오-」の後ろに「아/어」が続くと、「거」や「나」に形を変える。例えば、「앉다」、「오다」に「-아닐/-어늘」が接続した場合、「앉거늘」、「오나늘」となる。そしてこの「거」系列の語尾は自動詞だけではなく形容詞にも接続する。しかし、15世紀の文献(9)ㄱ、16世紀の文献に(9)ㄴでは、他動詞「너지다」であれば、それぞれ「너지시늘」、「너지늘」となるはずが、「너지거시늘」、「너지거늘」という形態が確認できる。

(9) ㄱ. 어엿비 녀기거시늘 <三綱行實圖 烈 7 >

ㄴ. 무울 사람이 영화로이 녀기거늘 <小學諺解 5 : 30 >

同様に17世紀の文献(10)でも、「도히 녀기다」、「민망히 녀기다」に「거」系列の語尾が接続している。

(10) ㄱ. 신라 진평왕이 산형을 도히 녀기거늘 <東新忠 1 : 7 b >

ㄴ. 아비 일즉 아가아달 순이 던디집 업스물 민망히 녀기거늘 <東國新續三綱行實圖 三綱孝子圖 1 : 45 b >

また、李賢熙(2005)で「너지다」の構文を11に分類した「<2>'NP-{애,로}AD P 녀기다」形式」の例文として、提示された(3)にも「너지거늘」が現れる。이은섭(2008)は、現代国語で「여기다」が形成する構文について、「-로」副詞語先行構文と副詞節先行構文の2つに分類し、全体が他動詞構文であると述べている。「너지다」が他動詞であるとする、これらの現象は、「너지다」が前に来る副詞語と共に用いられ「어엿비 녀기다」、「영화로이 녀기다」という形態で形容詞のような扱いであったか、あるいは形容詞を強調する役割だけをしていたと考えられる。このような「거」系列の語尾が接続しているものは15世紀15個、16世紀10個、17世紀6個、18世紀14個、19世紀5個、20世紀2個が確認でき、45個は副詞語と共に用いられており、その他7個は叙述文や助詞が先行してた。そして、その副詞語を形成する語彙は感情を表す形容詞であるという特徴が見られた。このことについては、第6章の意味に関する部分で述べるが、感情を表す漢字一文字で表記されたものを諺解する際、ほとんどが接尾辞「-이」が結合した副詞と「너지다」で表されるため、「-이」で形成される副詞語+너지다」を形容詞とみるのが妥当であると考えられる。

## 5. 「여기다」の統辞的分析

## 5.1 結合関係

表5は、「어디메」から抽出した現在の「여기다」に該当する5,042個の単語に先行し結合するものである。

表5 「여기다」の世紀別結合関係①(어디메より)

単位(数:個/割合:%)

結合要素	15世紀		16世紀		17世紀		18世紀		19世紀		20世紀	
	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
副詞 (이)	696	65	374	75	407	78	680	77	1,080	85	637	80
副詞 (게/케)		0	2	0	3	1	55	6	83	7	49	6
副詞 (곧, 다, 쏘他)	27	3	1	0	1	0	9	1		0		0
副詞の否定形	12	1	16	3	4	1	17	2	12	1	2	0
助詞 (만, 과, 고)	17	2	13	3	2	0	12	1	22	2	4	1
助詞 (이, ㅣ, 은/는)	37	3	3	1	2	0	2	0	2	0		0
助詞 (로, 노)		0		0	9	2	9	1	44	3	84	11
叙述文 (다, 라)	61	6	13	3	12	2	6	1		0	1	0
語尾 (저, 자他)	23	2	11	2	15	3	10	1	3	0	2	0
語尾 (르/는/는가他)	20	2	23	5	23	4	38	4	2	0	6	1
語尾 (르까)	2	0		0	4	1	7	1		0		0
語尾 (고)	18	2	1	0	1	0		0		0	2	0
先行文なし	14	1	1	0		0	3	0	6	0	4	1
名詞	19	2		0	1	0		0	1	0		0
目的語節 (돌)	4	0		0	1	0		0		0		0
その他	125	12	43	9	34	7	31	4	19	1	8	1
	1,075	100	501	100	519	100	879	100	1,274	100	799	100

表5からわかるように、いずれの時代においても「여기다」に該当する語彙に先行して結合する要素としては、接尾辞「-이」が結合した副詞語が最も多く、他の要素は10%に達しないものがほとんどである。副詞を形成する派生接尾として、「-이」、「-히」、「-오/우」などを挙げることができるが、「-히」については、「-히다」という形態から「ㅎ」が脱落し「-이」が結合したものであるため、ここでは「-이」、「-히」を別々に扱わず、「-이」として計上している。이은섭(2008)では、「여기-」が形成する最も典型的な構文は「-게 여기-」構文であるとしているが、少なくとも現代国語初期の段階では、「-게」が結合した副詞語は全体の6%に過ぎず、「-이」で形成される「-이 여기-」構文が主であったことがわかる。

- (11) ㄱ. 衆生을 어엿찌 너겨 正法을 세시니이다 <釋譜詳節 24>  
 ㄴ. 아비사 비록 어엿비 너겨 이든 말로 달애야도 <月印釋譜 12>  
 ㄷ. 공민왕이 보야호로 신둔이를 어엿비 너기셔를  
     <東國新續三綱行實圖 三綱忠臣圖>  
 ㄹ. 오직 던해 에엿비 녀이시며 <明義錄解 利>  
 ㅁ. 너희 어엿비 네기기를 너희 하늘에 아밤이 갖치 호여라  
     <耶蘇聖教全書>
- (12) ㄱ. 더 사르미 헤아롬 업숨 우수를 므던히 너골디니라 <南明泉繼頌諺解>  
 ㄴ. 그 아비 일 홀어미 된 주를 슬피 너겨 브들 앓고져 호거늘  
     <東國新續三綱行實圖 新續烈女圖 卷七>  
 ㄷ. 의덕이 술을 밍그라늘 위 자시고 들게 너겨 니르샤디  
     <十九史略諺解卷之一>  
 ㄹ. 은혜의 고로지 아님을 엇더케 녀일고 <寶鑑 2>

そして、接尾辞「-이」が結合する語彙で、最も多いのが「어엿브다(불쌍하다)」であり、(11)のように「어엿찌/어엿비/어엿비/에엿비/어엿비」といった形態で現れる。その他の語彙も(12)ㄱ.ㄴ.のように感情を表す形容詞に接尾辞「-이」が結合したものが大半であった。一方、近代以降増加する「-게」が結合して形成される副詞語は、(12)ㄷ.ㄹ.のように、状態を表す形容詞に結合したものが多く。

表 6 「여기다」の世紀別結合関係②

(『李朝語辭典』、『古語辭典』、『고어대사전』 『17세기 국어사전』より)

単位(数:個/割合:%)

世紀 先行語	15世紀		16世紀		17世紀		18世紀		19世紀	
	20	64.5	14	73.7	159	77.9	7	77.8	11	100
副詞語	20	64.5	14	73.7	159	77.9	7	77.8	11	100
-라	4	12.9			1	0.5				
-가					1	0.5				
-르/논/논가	1	3.2	1	5.3	25	12.3	1	11.1		
-을	1	3.2								
-져	1	3.2			3	1.5				
-애	1	3.2								
-로			1	5.3	5	2.5				
-도			1	5.3	2	0.9				
-만					1	0.5	1	11.1		

名詞	1	3.2			2	0.9				
句	1	3.2	1	5.3	4	2				
なし	1	3.2	1	5.3	1	0.5				

表 6 は、『李朝語辭典』、『古語辭典』、『고어대사전』、『17 세기 국어사전』に意味が「여기다」として掲載された 314 の例文から重複を除き、年代がわかるものから「여기다」に先行し結合するものをまとめたものである。

表 6 からわかるように、こちらも全体の 80%弱で副詞語が「여기다」に該当する語彙に先行する。この副詞語 211 個は、2つを除きすべて「어엿비 너기다」、「도히 너기다」、「아름다이/아름다이/아름다히 너기다」のように接尾辞「-이」が結合した、形容詞からの派生副詞であった。そして、いずれのデータからも中世から近代にかけ共通しているのは、その形容詞が感情を表すものが大半であるということである。

次に現代朝鮮語である。국립국어원 비출판물 말뭉치から収集した「여기다」が使われた文章は文語 29 件、口語 27 件であった。これらの文章で「여기다」に結合する要素として先行するものは表 7 の通りである。

表 7 「여기다」の結合関係(국립국어원 비출판물 말뭉치より)

単位(数:個/割合:%)

先行語	文語		口語	
	数	割合	数	割合
-게	8	27.6	11	45.8
-로/으로	8	27.6		
-라/-라고	6	20.7	4	16.7
눈			3	12.5
-다/-다고	2	6.9	1	4.2
소중히,궁홀히	2	6.9	1	4.2
당연시,중요시	1	3.4	2	8.3
その他	2	6.9	2	8.3

最も多く結合したものは文語、口語ともに語尾「-게」であり、文語では「-로/으로」が同数であった。中世、近代同様に副詞語が結合する割合は多いが、「-이/히」で作られた副詞語より「-게」の割合が多いことがわかる。「-게」は、動詞や形容詞の後ろに接続し、後ろにくる状態の目的や結果、程度などを表す

語尾であるが、「당연하다」、「신중하다」、「중요하다」、「소중하다」といった形容詞に接続しており、「딱하다」、「가없다」を除いたすべてが状態を表す形容詞であった。

これらをまとめると、「여기다」に先行して結合する要素として、中世から現代の初期までは感情を表す形容詞に接尾辞「-이」が結合した副詞語が最も多かったが、近代以降、状態を表す形容詞に語尾「-게」が接続したのが見られるようになり、現代は語尾「-게」が接続する形態が最も多くなった。これは第4章で考察した「-이」で形成される「副詞語+너지다」を形容詞と見ることにとも関連しており、感情を表す形容詞に接尾辞「-이」が結合した副詞語と「너지다」という形態は、現代ではひとつの形容詞となっていると考えられる。

## 5.2 統辞論的統合構造

先行研究で言及した通り、李賢熙(2005)では、中世の「너지다」構文の統辞論的統合構造について、11パターンを例と共に羅列し、中でも「너지다」構文は、目的語を持つ場合、目的語と「너지다」の間に副詞語を統合させる構文類型が最も多いと述べ、その構文パターンとして3つを提示している。それらを元に、「여기다」構文における統辞論的統合構造について考察する。李賢熙(2005)が示した副詞語を先行させる3つの構文パターンは次の通りである。

- <2>'(NP-를,V-오물,V-{ㄴ,ㄹ}돌)ADP 너기다'形式  
 <2'>'VP-돌 ADP 너기다'形式  
 <2''>'NP-{애,로}ADP 너기다'形式

収集した用例の多くを分析した結果、李賢熙(2005)の3つの構造パターンの分布を見せるものが確認できた。しかし、3つの構造パターンだけでなく、残る8つの構造パターンに分類される用例においても、副詞語を統合させているものが確認された。

- (13) ㄱ. 어딘 일을 어달이 너교디 色 도히 너김으로 밧고아 흥며<小學諺解 1>  
 ㄴ. 狹獮 더러 부료물 듣고져 조수로이 너기고<杜詩諺解 20>

(13) ㄱ.は、李賢熙(2005)で提示された「<3''''>'NP-를 너교디 S' (흥-)'形式」である。「너교디」の前に副詞語が先行している。そして、(13) ㄴ.は、「<4>'VP-고져 너기-'形式」である。こちらも「너지」の前に副詞語が先行している。つまり、新たに「NP-를 ADP 너교디 S' (흥-)'形式」、及び「VP-고져 ADP 너기-'形式」を追加する必要がある。

そして、11の構造パターン当てはまらないものも確認されたが、その中でも

中世から現代にかけて確認されたものが次の(14) (15)である。

- (14) ㄱ. 이뻘 아들돌히 아비 죽다 듣고 무수매 ㄱ장 설버 너고디 <月印釋譜 17>  
 ㄷ. 每每에 念<sup>ㅎ</sup>호미 이에 밋고 自然히 므던히 너골 무수몰 두디 몰홀 ㅅ라미로 라 <內訓 1>  
 ㄹ. 관원이 이 말을 듣고 ㄱ장 우습게 녀이나 <三說記 卷之 27 張本>
- (15) ㄱ. 그런 죄인돌히 다 즐겁고 쾌히 너기몰 만나고 <佛說長壽滅罪護諸童子陀羅尼>  
 ㄴ. 밥 머글 에도 업수니 괴롭고 설이 너겨 혼번은 혼자말노 니르디 <西宮日記>  
 ㄷ. 그도 그럴것이 보통 더럽고 하찮게 여겨지는 발톱과 보통 깨끗하고 송고하다고 여겨지는 사랑의 조합이라니 <非出版物、15歲、女性>

(14)は「듣다(듣다), 밋다, 웃다」といった動詞に、動作の先行を表す語尾「-고」が接続したものと、「너기다」の間に副詞語が入るパターンである。この時の語尾「-고」は、単純な動作の先行を表しているだけではなく、例えば、(14)ㄱ. 「それを聞いて、苦しく思う」のように、先行文のことが起こり、そのことが原因で後行文の状況や感情となることを表しており、語尾「-아서/어서」と入れ替えが可能である。これについても、新たに「V-고 ADP 너기(여기)-形式」、「V-고 ADP 너고디-形式」を追加する必要がある。

一方、(15)は「즐겁다, 괴롭다, 더럽다」といった形容詞に、並列を表す語尾「-고」が接続したものと、「너기다」或いは「여기다」の間に副詞語が入るパターンである。この時の語尾「-고」は、例えば(15)ㄱ. 「楽しく、愉快地に思う」のように、2つの状態を並列に述べており、「愉快地で、楽しく思うと」前後の入れ替えが可能である。こちらも「ADJ-고 ADP 너기(여기)-形式」の追加が必要である。

## 6. 「여기다」の意味的分析

### 6.1 漢字表記による意味分析

박영섭(2012)では、15世紀『訓民正音』、『釋譜詳節』、『月印釋譜』、16世紀『訓蒙字會』、『光州千字文』、『石峰千字文』、『新增類合』、17世紀『老乞大諺解 上・下』、『朴通事諺解 上・中・下』、18世紀『伍倫全備諺解』、19世紀『註解 千字文』、20世紀『字典釋要』、『新字典』といった文献から、一音節の漢字、二音節以上の漢字について、対訳語を通時的に分析しており、「너기다」に該当する漢字として、一音節の漢字では「見、僞、想、擬、誕」を挙げている(【付録 4】を参照)。また、「어엿비녀기다」に該当する漢字

として「憐」、「어엿비 너기다」に「憫然」、「므더니 너기다」に「傲(傲)」、  
「어엿비」に該当する漢字では「矜、哀、哀愍、憐愍、惻隱」を挙げているが、  
これらは「어엿비」としてだけでなく「어엿비 너기다」としての意味を表して  
いることから、「너기다」が単独で使われる場合と、副詞語などと共に用いら  
れる場合があったことがわかる。このことを踏まえ、『李朝語辭典』、『古語  
辭典』、『고어대사전』、『우리말 큰사전』の例文と共に漢字表記について考  
察する。

まず、15 世紀文献上の(16)の文章で、一音節の漢字「謂、以」は「～と思う」  
、「想」は「～に思う」、「意」は「～を思う」、「擬」は「察する、慮る」  
という意味として「너기다」が用いられている。一方、一音節の漢字「愛」、  
二音節の漢字「哀矜」は「어엿비 너기다」が用いられている。

(16) ㄱ. 훈 會예 다 니르디 아니하시니라 너기며 <楞嚴經諺解 1 : 16 >

ㄴ. 내 百姓 어엿비 너기샤:我愛我民 <龍飛御天歌 50 章 >

ㄷ. 어엿비 너겨 보샤:覽之哀矜 <龍飛御天歌 96 章 >

ㄹ. 무수매 너기며 사랑하야:心想思惟 <金剛經諺解 上 16 >

ㄹ. 그 잘 호말로 누물 病드이 너기디 아니홀시 : 不以其所長病人故 <圓覺經  
諺解序 10 >

ㅁ. 漸漸 저근 비물 노코져 너기노라 : 漸擬放扁舟 <初刊杜詩諺解 14 : 8 >

ㅂ. 어느 出守하야 江城의 와 사로물 너기리오 : 豈意出守江城居 <初刊杜詩  
諺解 21 : 17 >

ㅇ. 너겨 議論하며 思量하린댄 : 擬議思量 <南明集諺解 下 67 >

16 世紀の文献上の(17)の文章では、一音節の漢字「憐、賤、好、榮、痛」が  
「불쌍하다(憐だ)」、「천하다(賤しい)」、「좋다(良い)」、「영화롭다(華や  
かだ)」、「아프다(痛い)」のように、現在は形容詞の一単語で表すものを、「  
副詞語+너기다」としている。

(17) ㄱ. 어엿비 너길 년 (憐) <新增類合 下 13 >

ㄴ. 飲食만 하논 사롬을 곧 사롬이 저히 너기누니 : 飲食之人則人賤之矣 <宣小  
5 : 29 >

ㄷ. 學者 | 眞實로 너기며 議論티 묻하리로다 : 學者實不可擬議也 <禪家龜鑑  
下 63 >

ㄹ. 용민을 도히 너겨 싸흠 싸호며 : 好勇鬪狼 <宣小 2 : 34 >

ㄹ. 무을 사롬이 영화로이 너기거늘 : 鄉人榮之 <宣小 5 : 30 >

ㄴ. 아비 命 아닌 줄을 설이 녀겨 : 痛父非命 <宣小 6 : 24>

17世紀の文献上の(18)の文章では、一音節の漢字「安、奇、悦」が16世紀同様「편안하다(安らかだ)」、「기특하다(奇特だ)」、「기쁘다(嬉しい)」などの形容詞一単語で表されず「副詞語+너지다」となっている。

(18) ㄱ. 네브터 비르수 天命을 便安히 네겨 : 宿昔始安命 <杜詩諺解重刊二 13>

ㄴ. 아는 사람이 기르기 녀기더라 : 識者奇之 <東國新續三綱行實圖 忠 1 : 50>

ㄷ. 도적이 그 고은 주를 도히 녀겨 자바가고져 허거닐 : 賊悦其姿色將欲攬去 <東國新續三綱行實圖 孝 7 : 56>

18世紀の文献上の(19)の文章では、一音節の漢字「善、苦、輕」が「착하다(良い)」、「괴롭다(苦しい)」、「가볍다(軽い)」などの形容詞一単語で表されず「副詞語+너지다」に、一音節の漢字「爲」は「〜と思う」を表している。

(19) ㄱ. 착히 녀기다 : 善之 <同文類解上 24>

ㄴ. 내 그디를 위허라 당검을 춤추고져 허나 칼 노爲래 괴롭 : 고 슬퍼 사람이 괴로이 녀겨 염허돏다(我欲爲君舞長劍、劍歌苦悲人苦厭) <古文眞實諺解 5-1 : 21>

ㄷ. 爲?샤군 왕니 필탁으로써 다 방달을 일심으니 지어 취허매 오슬 벗고 희롱 허고 늙더도 그러게 녀기디 아니허더라(城陽王夷、眞蔡畢卓、皆以任放爲達、至於醉狂裸體、不以爲非) <通鑑 西晉 2 : 3>

ㄹ. 以爲?뵈 상해 슈의 좌우를 섬기니 좌위 다 기리논디라 쉬 어딘가 녀겨 단시드려 왈(實善事垂左右、左右多譽之、故垂以爲賢、謂段氏曰) <資治通鑑 東晉 9 : 25> 覺

ㅁ. 선부도 오히려 능히 후싱을 두려허신디라 [선부논 동주라] 당뵈 가히 년소를 가뵈야이 녀기디 못홀씨로다(宣父猶能畏後生、丈夫未可輕年少) <古文眞實諺解 4 : 43>

19世紀の文献上の(20)の文章では、一音節の漢字「傲、屑、憐」が「오만하다(傲慢だ)」、「달갑다(満足だ)」、「불쌍하다(憐だ)」、二音節の漢字「不快」が「불쾌하다(不快だ)」などの形容詞一単語で表されず「副詞語+너지다」に、一音節の漢字「覺」が「〜と思う」を表している。

(20) ㄱ. 니 나히 일천 허 풍상을 오만니 녀기니 놓흔 줄기와 영기로은 가지 힘이 스스로 강허엿도다(吾年千載傲風雷霜、高幹靈枝力自剛) <啓明大 西遊記 21 : 100-64>

- ㄴ. 如也 ; 不快如也 ? 양어시 추탁하고 아니 머그려 흥거늘 빅공이 더욱 쾌히 아니 너겨 술을 자바흔 번 거후르고(楊御史還推辭理論. 白公因心下不快、拿起酒來、也不候楊御史、竟自一氣飲乾) <玉嬌梨 1 : 16>
- ㄷ. 亦如也、然也、与너겨同? 쇼데 지으려 흥니는 또 못 지을로다 흥니 이 글을 못 지오미 아니라 쇼데로 더즈려 흥가지로 흥믈 슬히 너기미라(及小弟是做、你又說不做. 這是明欺小弟不是詩人、不厝與小弟同吟) <玉嬌梨 1 : 17>
- ㄹ. 覺? 다박시 츠언을 듯고 더욱 이상히 너겨 다만 모호히 응답하며 누의 나려 차를 가질나 가디(茶博士聽了此言、更覺詫異、只得含糊答應、搭訕着下樓取茶) <忠烈俠義傳 11 : 27>
- ㄹ. 노야는 우리들의 이 한 목숨을 어엿비 네겨 다시 싱각호어라(老爺可憐我們的這一條性命再 // 想着罷) 원접스(遠接使) <華音撮要 56b>

このように、感情を表す漢字は形容詞一単語で表さず、「副詞語+너기다」という形態で表されていた。そして、第 4 章で考察した通り、中世の文法において、他動詞には接続しない「거」系列の語尾が「너기다」に接続し、「너기거시 놀」、「너기거늘」という形態が確認できた。つまり、現代の感情形容詞は「副詞語+너기다」で表され、形容詞として扱われていたが、時代とともにそれらは、「도히 너기다(良く思う)> 좋다(良い)」、「便安히 네기다(安らかに思う)> 편안하다(安らかだ)」、「괴로이 너기다(苦しく思う)> 괴롭다(苦しい)」のように感情形容詞として一単語で表現されることとなったと考えられる。現代の感情形容詞は一単語で「여기다」までを含むことになる。

## 7. まとめ

本研究は、朝鮮語において日本語の「思う」に該当する「여기다」について、中世から近代、そして現代へと通時的に、形態的、統辞的、意味的分析を実施し、その特徴を提示することを目的とした。そして、第 3 章の先行研究で指摘した部分について考察を行い、次の通り明らかにした。

まず、『국립국어원 우리말샘』、「어디메」から抽出した資料、연세 20 세기 한국어 말뭉치から収集した資料を基に考察を行った結果、이상익、서승완(2017)では、「여기다」が 15 世紀から 19 世紀には現れていなかったが、少数ではあるものの「여기다」は 18 世紀に現れ始めていたことがわかった。元々 15 世紀に「너기다」という形態であったが、その後 16 世紀に連綴表記「너기다」が現れ、18 世紀には分綴表記「넉이다」という形態が現れその形態が 19 世紀には主流となった。そして、19 世紀はそれ以外に「넉이다」なども含め非常に多くの形態

が存在する時期であり、現代に入っても初期のころは「넉이다」がしばらく主に現れていたが、1920年には「여기다」が6割に達し、その後1930年には9割を超え、現在はほぼ100%「여기다」を使用するに至っている。また、先行研究や『국립국어원 우리말샘』では見られなかった、重綴表記「넉기다」が近代前期と現代朝鮮語で、「넉기다」が近代後期から現代朝鮮語の文献で、「넉계다」が近代後期朝鮮語の文献で見られ、異形態として、「넉기다, 넉이다, 넉기다, 넉이다, 역이다, 네기다, 너기다, 너기뜨다, 너계다, 넉기다」の存在を明らかにした。

次に、이은섭(2008)は、現代朝鮮語で「여기다」が形成する構文について、「-로」副詞語先行構文と副詞節先行構文の2つに分類し、全体が他動詞構文であると述べている。しかし、中世の文法において、「거」系列の連結語尾が自動詞だけではなく形容詞にも接続することから、15世紀、16世紀の文献に見られる「넉기거시늘」、「넉기거늘」は、他動詞「넉기다」としてではなく、副詞語と共に用い形容詞のような扱いであったか、あるいは形容詞を強調する役割だけをしていたと考えられる。

そして、李賢熙(2005)では中世朝鮮語「넉기다」の構文類型を11のパターンに分類し、目的語を持つ場合、目的語と「넉기다」の間に副詞語を統合させる構文類型が最も多いとし、そのパターンとして3つのパターンを提示していた。しかし、この3つのパターンに分類できない物があり、新たに「NP-를 ADP 넉교디 S' (ㅎ-)'形式」、「VP-고져 ADP 넉기-'形式」、「V-고 ADP 넉기(여기)-'形式」、「V-고 ADP 넉교디-'形式」、「ADJ-고 ADP 넉기(여기)-'形式」の追加が必要であることを明らかにした。

홍사만(1998,2003)では、15世紀以降「넉기다」が「넉교디」の形態以外で自動詞のように現れるものがあると述べていた。しかし、感情を表す漢字は形容詞一単語で表さず、「副詞語+넉기다」という形態で表されていたこと、中世の文法において、他動詞には接続しない「거」系列の語尾が「넉기다」に接続し、「넉기거시늘」、「넉기거늘」という形態が確認できたことから、現代の感情形容詞はかつて「副詞語+넉기다」で表され、自動詞としてではなく形容詞として扱われていたが、時代とともにそれらは、「도히 넉기다(良く思う)>좋다(良い)」、「편안히 넉기다(安らかに思う)>편안하다(安らかだ)」、「괴로이 넉기다(苦しく思う)>괴롭다(苦しい)」のように感情形容詞として一単語で表現されることとなったと考えられる。つまり、現代の一単語の感情形容詞は、中世における「副詞語+넉기다」である。李賢熙(2005)の、「넉기다」が目的語を持つ場合、目的語と「넉기다」の間に副詞語を統合させる構文類型が最も多かったということについても、このような理由からと思われる。また、中世から現代初期朝鮮語にかけ、いずれの時代においても、接尾辞「-이」が結合した副

詞語が最も多く、他の要素は 10%に達しないものがほとんどであった。そして、この副詞語を形成するのは、感情を表す形容詞からの派生副詞が大半であった。そして、現代中期以降も副詞語と結合する割合は多いが、それまでとは異なり、'-이/히' で作られた副詞語より「-게」の割合が多く、また「-게」が結合する形容詞は、感情を表すものではなく状態を表す形容詞であった。これは、現在は感情形容詞一単語で表されるものが、中世から近代朝鮮語にかけては「副詞語+너지다」でその意味を担っていたためであると思われる。

本研究は各時代の対象文献を幅広く設定し、非常に多くの文例から考察を行ったが、すべて文献であり、実際の言語活動ではないこと、語彙の使用基準や頻度については著者や編集者、あるいは翻訳者の影響があるという問題点がある。しかしながら、通時的な研究を行うためには、現時点ではこの方法しかない。今後、現代の口語における「여기다」の使用頻度や結合要素などを中心に研究をすすめ、最終的に指導方法へとつなげていきたい。

## 〈参考文献〉

### ■ 図書・論文

- 高明均 (2014) 『『馬經諺解』語彙研究-17世紀近代朝鮮語の語彙の宝庫-』 関西大学出版部
- 高明均 (2020) 「漢字語의 한글表記와 類型에 관한 考察-『洪吉童傳』(昭和9年, 京城)을 中心으로-」 『外国語学部紀要』第23号, 関西大学
- 고영근・본관 (2011) 『우리말 문법론』 집문당
- 고영근 (2012) 『표준 중세국어문법론』 집문당
- 국립국어원 (2012) 『외국인을 위한 한국어 문법 2』 커뮤니케이션북스
- 박덕유・강미영 (2018) 『쉽게 풀어쓴 한국어 문법』 한국문화사
- 박영섭 (2012) 『한자 대역어의 통시적 연구』 도서출판 박이정
- 宋喆儀 (2008) 『國語의 派生語形成 研究』 國語學會
- 李基文 (1961) 『國語史概說』 民衆書館
- 이은섭 (2008) 「'여기-' 구문에 대하여 -구문 유형과 사유의 속성을 중심으로-」 『國語學』 第53輯, 국어학회, pp. 141-175.
- 李翊燮・李相億・蔡琬 (2010) 『韓國語概說』 大修館書店
- 이익환・이민행 (2005) 『심리동사의 의미론』 도서출판 연락
- 李賢熙 (1994) 『中世國語 構文研究』 新丘文化社
- 李賢熙 (2005) 「15세기 국어 동사 너기다 표제항의 용례 배열」 『한국사전학(5)』 한국사전학회, pp. 57-77.

- 鄭在永 (1996) 『依存名詞‘ㄷ’의 文法化』 太學社
- 허용·강현화·고명균·김미옥·김선정·김재욱·박동호 (2021) 『외국어로서의 한국어교육학 개론』 박이정
- 홍사만 (1998) 「중세·근대어 어휘의미 연구(5) -「사랑하다」, 「싱각하다」, 「너지다」의 띄미-」 『어문론총』 제 32 호, 경북어문학회
- 홍사만 (2003) 『국어 어휘의미의 사적변천』 한국문화사
- 홍윤표 (1994) 『근대국어연구(1)』 태학사

■ 辞書類

- 남광우 (1997) 『교학 고어사전』 교학사
- 박재연 (2010) 『고어대사전』 서문대학교 중한번역문헌연구소
- 이상억·서승완 (2017) 『조선시대어 형태 사전』 서울대학교출판문화원
- 劉昌惇 (1955) 『李朝語辭典』 延世大學校 出版部
- 한글학회 (1992) 『우리말 큰사전 4:옛말과 이두』 어문각

■ ウェブサイト

- 국립국어원 (2021) 『표준국어대사전』 2021 년 4 분기版, 국립국어원홈페이지, (2022 年 3 月 10 日取得,  
[https://stdict.korean.go.kr/search/searchView.do?word\\_no=456923&searchKeywordTo=3](https://stdict.korean.go.kr/search/searchView.do?word_no=456923&searchKeywordTo=3))
- 어디메 「한국어 고문헌 검색기」 어디메홈페이지, (2022 年 5 月 11 日取得,  
<https://akorn.bab2min.pe.kr/>)

■ コーパスデータ

- 국립국어원 (2021) 「국립국어원 비출판물 말뭉치(버전 1.0)」 국립국어원홈페이지, (2021 年 8 月 19 日取得)
- 연세대학교 언어정보연구원 「연세 20 세기 한국어 말뭉치」 연세대학교 언어정보연구원 홈페이지, (2022 年 6 月 11 日取得,  
<https://ilis.yonsei.ac.kr/corpus/#/search/TW>)

- 受付 : 2022 年 7 月 31 日
- 修正 : 2022 年 9 月 13 日
- 掲載 : 2022 年 9 月 30 日

## 【付録 1】

## 「어디메」の時代別検索対象文献

時代	文献名
15世紀	改刊法華經診解(2巻の文献)、救急簡易方(5巻の文献)、救急方診解(2巻の文献)、金剛經三家解診解(7巻の文献)、南明果繼頌診解、楞嚴經診解(10巻の文献)、東國正韻、杜詩診解(18巻の文献)、牧牛子修心訣、蒙山法語、般若心經診解、法華經診解(5巻の文献)、佛頂心陀羅尼經、四法語診解、三綱行實圖(3巻の文献)、三壇施食文、上院寺重創勸善文、釋譜詳節(9巻の文献)、禪宗永嘉集診解(3巻の文献)、詩釋義、神仙太乙紫金丹、新昌孟氏墓出土診簡、十玄談要解、佛說阿彌陀經、靈驗略抄、龍飛御天歌(10巻の文献)、圓覺經診解(12巻の文献)、月印釋譜(20巻の文献)、月印千江之曲、六祖法寶壇經診解、眞言勸供、訓民正音
16世紀	簡易辟瘟方、警民編、救荒撮要、内訓(4巻の文献)、老朴集覽、論語診解(4巻の文献)、大學診解、梅湖別曲、孟子診解、蒙山和尚六道普說、武藝諸譜、百聯抄解、翻譯老乞大(2巻の文献)、翻譯朴通事、翻譯小學(7巻の文献)、法集別行錄、分門瘟疫易解方、佛說大報父母恩重經、佛說長壽滅罪護諸童子陀羅尼經、書傳診解(5巻の文献)、石峰千字文、宣祖國文敎書、聖觀自在求修六字禪定、小學診解(6巻の文献)、續三綱行實圖、順天金氏墓出土診簡、新增類合、安樂國太子傳變相圖、安民學哀悼文、呂氏鄉約診解、牛羊猪染疫病治療方、迂濶歌、二倫行實圖、李應台墓出土診簡、自悼詞、正俗診解、中庸診解、瘡疹方撮要、天字文(光州版)、初發心自警文、七大萬法、太平詞、鶴峰金誠一診簡、孝經診解、訓蒙字會
17世紀	家禮診解 卷(10巻の文献)、警民編診解、勸念要録 全、金塘別曲 存齋歌帖、南征歌、南草歌、老乞上診解(2巻の文献)、蘆溪歌 蘆溪先生文集、陋巷詞 蘆溪先生文集、獨樂堂 蘆溪先生文集、東國新續三綱行實圖 三綱(23巻の文献)、東醫實鑑 湯液篇、痘瘡經驗方、慕夏堂述懷歌 慕夏堂實記卷之三、朴通事診解(3巻の文献)、辟瘟新方、丙子日記、鳳山曲(一名 天臺別曲) 零潭別集、龍湫遊詠歌 水南放翁遺稿、北關曲、分類杜工部詩(25巻の文献)、墳山恢復謝恩歌 清溪歌詞、莎堤曲、西宮日記、禪家龜鑑、船上歎 蘆溪先生文集、聖主中興歌、松江歌(2巻の文献)、詩經診解(20巻の文献)、新刊救荒撮要、新傳煮取焰焔方診解、語録(2巻の文献)、診解痘瘡集要(2巻の文献)、診解胎產集要、女訓診(2巻の文献)、譯語類解(3巻の文献)、練兵指南、嶺南歌、類合(2巻の文献)、逸民歌、立巖別曲、爲君爲親痛哭歌、周易診解(9巻の文献)、晉州河氏墓出土診簡、天字文(2巻の文献)、天風歌 存齋歌帖、捷解新語(9巻の文献)、出塞曲、火炮式診解
18世紀	家禮釋義、加邨申禁事目、改修 捷解新語(10巻の文献)、敬信録診釋、關東別曲[松江歌辭に収録]、勸禪曲持經靈驗傳、金剛別曲 明村遺稿、樂隱別曲 弄丸齋 歌詞集、論語栗谷先生診解(4巻の文献)、丹山別曲、大方廣佛華嚴經入不思議解脫境界普賢行願品、大學栗谷先生診解、同文類解、孟子栗谷先生診解(4巻の文献)、明義録解(4巻の文献)、蒙語老乞大(8巻の文献)、蒙語類解(3巻の文献)、武穆王貞忠録(7巻の文献)、武藝圖譜通志診解 全、朴通事新釋診解(3巻の文献)、方言類釋(4巻の文献)、兵學指南(2巻の文献)、北征歌 適宜、北窟歌、三譯總解(10巻の文献)、賞春曲(不憂軒輯 卷二[歌曲])、小兒論、續明義録診(2巻の文献)、續新基別曲、修善曲持經靈驗傳、新刊救荒撮要、新基別曲、新傳煮硝方、十九史略診解(2巻の文献)、樂學拾零、御製警民音、御製警世問答續錄診解(2巻の文献)、御製戒酒論音、御製内訓(3巻の文献)、御製百行原、御製賜畿湖別賑資論音、御製常訓診解、御製養老務頒行小學五倫行實鄉飲儀式鄉約條例論音、御製論(4巻の文献)、御製自省篇診解、御製濟州大靜旌義等邑父老民人書、御製祖訓診解、御製成鏡道南北關大小民人等論音、御製訓書診解、女四書診解(4巻の文献)、念佛普勸文、寧三別曲、伍倫全備診解(8巻の文献)、五倫行實圖 卷(5巻の文献)、優語類解(2巻の文献)、諭京畿(4巻の文献)、諭慶尙道(2巻の文献)、諭六邑民人等論音、諭諸道道臣論音、諭中外大小臣庶論音、類合(松廣寺版)、諭湖西大小民人等論音、諭湖南民人等論音、因果文彌陀懺抄、隣語大方(10巻の文献)、日東壯遊歌(4巻の文献)、字仙典則、龔說因果(2巻の文献)、製王世子冊禮後各道臣軍布折半蕩減論音、濟衆新編卷之八、種德新編診(4巻の文献)、重刊老乞大診解(2巻の文献)、中庸栗谷先生診解、增修無冤錄診解、地藏經診解、參禪曲持經靈驗傳、天字文(松廣寺版)、聞義昭鑑診解、捷解蒙語、八歲兒、合江亭船遊歌 存齋歌帖、型世言(4巻の文献)、曉諭論音、喜雪

19世紀	<p>歌曲源流、敬惜字紙文診解、京郷新聞、雇工歌 雜歌、雇工答主人歌 雜歌、古今歌曲 國語國文學資料叢書第5輯、過化存神、關東續別曲、關西別曲_岐峯集、關聖帝君五倫經(診解)、廣才物語、九雲夢、歸山曲 枕肱集、閨閣叢書 全、錦香亭記 1 (京板36張本)、南宮柱籍、南原古詞 (5卷の文献)、女士須知、大明英烈傳 (8卷の文献)、獨立新聞 (185卷の文献)、大方廣佛華嚴經[華嚴經疏鈔重刊助緣序]、每日新聞 (11卷の文献)、明聖經診解 全、牧童歌、蒙喻篇 上、夢中回心曲、夢幻歌 樂府(高麗大本)、夢幻別曲 樂府(高麗大本)、半回心曲 和請、謝氏南征記 (2卷の文献)、三國志 (3卷の文献)、三國志 (8卷の文献)、三説記、三聖訓經 全、西遊記 (2卷の文献)、聖教百問答、聖教切要、水南放翁歌 水南放翁遺稿、僧元歌、神學月報、沈清傳、御製諭大小臣僚及中外民人等斥邪論音、燕行別曲歌辭選、念佛歌、耶蘇聖教全書、月峰記 (2卷の文献)、月印千江之曲 和請、유옥역전傳、論中外大小民人等斥邪論音、諭八道四都耆老人民等論音、醫宗損益附餘、李茂實千字文、易言診解 (4卷の文献)、蠶桑輯要、鄭壽景傳 筆写本、竈君靈蹟誌、註解千字文、主教要旨、周年瞻禮廣益 (2卷の文献)、甌南浦 木浦 各國租界章程、眞教切要、陳大房傳 (2卷の文献)、眞理便讀三字經、懲世否泰錄 (京板32張本)、草庵歌[感應篇]、春香傳、到命日記 韓国教会史研究所 影印本、太上感應篇圖説 (5卷の文献)、天路歷程 卷之上 (2卷の文献)、兎生傳、閨中謾錄 (3卷の文献)、韓佛字典、漢字用法、協成會會報、洪吉童傳(京板30張本)、興夫傳</p>
20世紀	<p>寶鑑 (4卷の文献)、部別千字文、邵康節 活字本、速修漢文訓蒙、(新訂)千字文、神學月報、歷代千字文、烈女春香守節歌 (2卷の文献)、正蒙類語、初學要選、토끼傳、八相歌</p>

## 【付録 2】

『李朝語辭典』、『古語辭典』、『고어대사전』의 引用文献

辞書名	「여기다」に該当する単語が使用された文献
李朝語辭典	月印千江之曲、楞嚴經諺解、苧溪 太平詞、月印釋譜、捷解新語、翻譯小學、杜詩諺解初刊、金剛經三家解、新增類合 下、法華經諺解法、金剛經諺解、小學諺解、禪家龜艦諺解 上、禪家龜艦諺解 下、敬信錄諺解、杜詩諺解重刊、三綱行實圖 烈、小學諺解、朴通事諺解初刊 上、東國新續三綱行實圖 忠、癸丑日記、閑中錄
古語辭典	龍飛御天歌、釋譜詳節、月印千江之曲上、訓民正音註解本、月印釋譜、楞解經諺解、法華經諺解、金剛經諺解 上、圓覺經諺解 序、宣賜內訓序、杜詩諺解初刊、南明集諺解 下、翻譯小學、龜艦諺解 下、捷解新語、倭語類解 上、明皇、同文類解上、女範1、桐華寺 王郎傳、蘆溪集 太平詞、龜艦諺解 上、敬信錄諺解、杜詩諺解重刊、三綱行實圖 烈、翻譯朴通事 上、新增類合 下、小學諺解、宣孟、松江歌辭 續美人曲、松江歌辭 星山別曲、東國新續三綱行實圖 忠、東國新續三綱行實圖 孝、女四書諺解、癸丑日記、閑中錄
고어대사전	啓明大 西遊記、宣祖國文教書、順天金氏諺簡、柳時定諺簡、王氏傳、古文眞實諺解、玉嬌梨、資治通鑑 西晉、資治通鑑 東晉、忠烈俠義傳、浩然齋 下、辛未錄、洛城、碧虛談關帝言錄、嚴氏孝門清行錄、尹河鄭三門聚錄、蔓橫清類、華音撮要、三國志、苦行錄

## 【付録 3】

『국립국어원 우리말샘』 여기다의 世紀別의 用例

世紀	形態	例文
15 世紀	너지다	내 이룰 爲호야 어엿비 너겨 <<1446 訓民正音 2 ㄴ>> (번역: 내 이룰 위하여 불쌍히 여겨.) 仁者논 님 어엿비 너기논 사르미니 <<1447 釋譜詳節 11:12 ㄱ>> 膠漆스 짜호로 히여 萬古애 雷陳을 重히 너기게 호디 말라 <<1481 杜詩諺解-初 20:31 ㄱ>>
16 世紀	너지다, 너지다	아비 罪 업시 주근 주를 설이 너겨 가슴 두드려 울오 飲食을 아니 먹고 주그니 <<1514 續三綱行實圖 孝:32 ㄴ>> 네 닐음이 올타 나도 무수매 이리 너기노라 <<1510 年代 翻譯

		<p>老乞大 上:11 ㄱ&gt;</p> <p>제 아버지 죄 아닌 이레 주근 주를 설이 너져 벼슬 아니코 살며셔 &lt;1518 翻譯小學 9:26 ㄴ-27 ㄱ&gt;</p> <p>想 너길 상 &lt;1576 新增類合 下:11 ㄱ&gt;</p>
17 세기	<p>너기다, 너기다</p>	<p>아버이 저머셔 홀어미 된 줄를 어엿비 너져 남진 얼오려 혼대 &lt;1617 東國新續三綱行實圖 烈 2 ㄴ&gt;</p> <p>또 寧호면 비록 兄弟 이시나 友生만 곁티 너기디 아니호눗다 &lt;1613 詩經諺解 9:7 ㄴ&gt;</p> <p>이미 나를 嘉히 아니 너길시 能히 旋濟티 몬호라 &lt;1613 詩經諺解 12 ㄴ&gt;</p> <p>膠漆入 짜호로 히여 萬古애 雷陳을 重히 너기게 호디 말라 &lt;1632 杜詩諺解重刊 20:31 ㄱ&gt;</p>
18 세기	<p>너기다, 넉이다, 너기다, 넉이다, 여기다</p>	<p>朝廷이 重히 너기논 바논 이 文章이니 &lt;1721 伍倫全備諺解 3:1 ㄱ&gt;</p> <p>오직 어딘 사롬이야 능히 사롬을 도히 넉이며 능히 사롬을 아쳐히 넉인다 호니 &lt;1764 御製祖訓諺解 22 ㄴ&gt;</p> <p>女戒에 곁오디 가난호니는 가난롬을 편안히 너기고 가움여니는 가움열믈 경계홀 디니 &lt;1737 御製內訓 1:24 ㄱ-ㄴ&gt;</p> <p>동넉 빅성이 곁향을 브리기를 수이 넉이기는 &lt;1783 御製論原春道嶺東嶺西大小士民綸音 9 ㄱ&gt;</p> <p>불상이 여겨 갑술 나초와 주고 못되게 말지니라 &lt;1796 敬信錄諺釋 67 ㄴ&gt;</p>
19 세기	<p>너기다, 넉이다, 너기다, 넉이다, 역이다</p>	<p>상제 아롭다이 너기샤 너를 혼 벼슬과 돈 오만 냥을 주시느니라 &lt;1852 太上感應篇圖說 1:07 ㄴ&gt;</p> <p>고이히 넉이고 또혼 그 뜻을 아지 못호더니 &lt;1852 太上感應篇圖說 3:04 ㄴ&gt;</p> <p>과부를 불상이 너기고 곤혼 니를 구호며 곡식을 중이 너져 복을 앗기며 &lt;1880 三聖訓經 5 ㄱ&gt;</p> <p>외로운 니를 불상이 넉이며 잘못된 니를 용셔호며 &lt;1876 南宮桂籍 5 ㄴ&gt;</p> <p>변괴가 빅출호야 아래 스롬이 그 우홀 업슈이 역이미 지앙이 육친에 맞쳐셔 &lt;1882 論八道四都耆老人民等綸音 2 ㄱ&gt;</p>

## 【付録 4】

박영섭 2012 『한자 대역어의 통시적 연구』

「여기다」に該当する漢字一覽

漢字	意味	例文
見	보다,나토다,너기다,시방,얹피,번들 다,소견	하늘이 어엿비 너기샤(天可憐見) < 翻譯老乞大 上 2 >
憐	너기다	오히려 어엿비 너기샤물 민즈와( 猶恃憐憐) < 楞嚴經諺解 1-76 >
憐	수랑ㅎ다,어엿비너기다,돏오다,슌 다,슬프다,돏오다,愛憐ㅎ다,어엿브 다	오히려 어엿비 너기샤물 만즈와( 猶恃憐憐) < 楞嚴經諺解 1-76 > 마툴 다오매 굴꿇 개야밀 어엿비너 기고(築場憐穴蟻) < 杜詩諺解初 7.18b > 일편되어 나그내를 어엿비너기고( 偏憐客) < 翻譯老乞大 上 37 >
想	스치다,想, 너기다,思想,싱각	무슴 사모미 다민데 뜯 너기미니 이런드로(爲心特浮想耳故) < 楞 嚴經諺解 1-65 >
傲 (傲)	므더니 너기다,놈업시오다,傲慢	서르 므더니너교문(相傲) < 楞嚴 經諺解 9-78 >
擬	너기다	엇데 써 무슴매 너기료(何用擬心) < 楞嚴經諺解 2-84 > 싸혀 더더 니르고져 너기디 아니ㅎ 노라(撥棄不擬道) < 杜詩諺解初 22.4a >
誕	나다,너기다	政術란 사오나오물 돌히 너기고(政 術甘踈誕) < 杜詩諺解初 20.25b >
憫然	어엿비 너기다 > 불쌍히 여기다	憫然은 어엿비너기실씨라 < 訓民 正音 2 >